

湯平温泉場活力創造事業 事業計画書

～地域の団結力で、石畳に賑わいを取り戻せ！～

平成19年3月

湯平温泉場活力創造会議

湯平温泉場活力創造会議の概要

●名称、代表者及び所在地

- ・名称:湯平温泉場活力創造会議
- ・代表者:座長 清水嘉彦
- ・所在地:由布市湯布院町湯平温泉 温泉事務所内
- ・設立:平成17年6月21日

●目的、構成

- ・目的:湯平地域全体の活力創造を図るため、各団体、住民の枠を超えた役場に替わる新しい地域のコーディネーターとして設立。
地域資源を磨き、最大限活用して、湯平地域の発展に寄与する事業の企画、実践、管理運営を行う。
NPO法人認証申請中。
- ・構成員:湯平区、観光協会、旅館組合、共同温泉管理組合、配湯組合、農業関係者、青年部など湯平地域の主な団体の役員等で構成。
- ・組織:活力創造会議＝全体戦略策定、各分野の総合調整
個別分野の戦略策定のための分科会
「温泉資源活用検討部会」、「モータリゼーション対策検討部会」、
「湯平らしい温泉場作り検討部会」、「農業との連携検討部会」、
「食の魅力アップ検討部会」
「賑わいの場の創出検討部会」、「ソフト戦略と情報発信検討部会」

事業の目的

●湯布院の湯平から九州の湯平へ ～自主自立する湯平地域をめざす～

平成17年10月に湯布院町、庄内町、挾間町が合併して「由布市」が誕生しました。湯布院町は大きな由布市の一地域となり、必然的に湯平地区も文字どおり市の一地区となりました。これまでのような行政のきめ細かな支援が受けられなくなるとの危機感が生まれ、地域住民自らが主体となって湯平地域の将来を考えていかなければならないという声が出てきました。

湯平地区は、鎌倉時代から温泉場として知られ、温泉を地域の財産として大切にしてきましたが、ともすれば、温泉や観光のみを重視する傾向にありました。これが、現在の地域の停滞を招いた一因でもあります。

これから将来に向けて、湯平地域を活力ある地域に創り直していくためには、温泉場の背後に広がる美しい棚田などの農業資源を含めて、地域の資源を最大限に活用し、総合的な地域振興を図っていかねばなりません。

これまで温泉場と農業の連携の必要性は唱えられてきたものの実現に至りませんでした。しかしながら、今ここで、住民が一丸とならなければ地域がこのまま衰退を迎えかねない状況にきています。子どもたち、そして孫たちの世代のために、素晴らしい地域を創っていこうという決意のもと、観光関係者・農業関係者・地区住民と、湯平地区の全ての団体から構成する「湯平温泉場活力創造会議」を設立し、地域が一致団結して取り組む体制を整えました。

そこで、「大分県合併地域活力創造特別対策事業」を積極的に活用して、地域活性化を図りたいと考えています。

今後、この活力創造会議が、自主自立する地域の実現に向けて、戦略を練り、実践し、管理運営まで一貫して行っていきます。

これを契機に、地域の各分野が協働して、将来にわたって、地域振興事業の企画、実施、管理運営に取り組み、自主自立する湯平地域を創っていきます。

事業に取り組む経緯

●天下の名湯 栄光から停滞期へ

私たちの湯平地区は、古くは鎌倉時代から温泉場として親しまれてきました。湯平の湯は、飲んでよし、浸ってよしの天下の名湯として名を馳せ、昭和初期から昭和40年代までは療養温泉の「西の横綱」と称され、湯治場として大いに栄えました。

しかしながら、その後は、時代のニーズに対応できず、ピーク時は約60軒あった旅館が、現在は30軒に半減してしまいました。

同じ町内の由布院温泉が全国有数の観光地として人気を集め、町全体で年間400万人もの観光客が訪れる一方で、ここ湯平温泉においては、年間観光客は35万人ほどで、町全体の1割にも満たない伸び悩みの状態が続いています。

●構想の策定、実現への壁

そのような中、かつての賑わいを取り戻そうと若手旅館経営者たちが立ち上がり、平成15年8月に、石畳商店街の空き家旅館を自らの手で改修した「湯平秘密基地Barアジト」を開店させました。

これをきっかけに、石畳沿いの旅館街、商店街の再生を図るための構想作りがスタートし、湯平温泉商店街の再生計画「石畳浪漫プロジェクト構想」が平成16年3月に策定されました。

この構想に基づき、石畳への木製ベンチの設置、「湯平新聞」の発行など、湯平温泉の活性化の動きが少しずつ芽生えてきました。

しかし、観光関係者や旅館関係者が中心の任意の組織のため、湯平地域全体を巻き込んだ活動までには至りませんでした。また、財政基盤の見通しも立たないことから、構想段階から抜けきれず、実現までの道のりはたいへん陰しいという状況でした。

事業に取り組む経緯

●ラストチャンスを掴め

これまで、湯平地域においては、商業、観光、農業など個別の分野ごとに様々な振興策を実施してきましたが、全体的な戦略に欠け、各分野での連携がうまく図られないことなどから、実効を上げるまでには至らず、地域が停滞した状態が長く続いてきました。

有効な打開策が見出せない一方で住民の地域再興の思いは募っていくという状況の中、大分郡3町の合併が進み、住民の間には、地域住民自らが主体となって行動しなければならないという機運が芽生えました。

この度創設された「大分県合併地域活力創造特別対策事業」は、地域が活力を生み出していく事業に対して幅広い支援をいただけるもので、私たちは、これまでの反省の上に立ち、湯平地域全体の活力再生に取り組む最後のチャンスとして、地域の力を総結集して、当事業の活用を通じて、湯平地域の明るい未来を切り拓いていく決意であります。

湯平地域の再生の3つの柱と7つの戦略

●湯平地域の再生

地域の観光、商業、農業等の各分野が連携し、湯平地域全体の活力を創造するために、3つの柱を掲げ、その実現のために、地域資源を磨き、活用した7つの戦略を実施します。

◆3つの柱

観光客の増加による地域収益の増進

- ・個性ある湯平温泉を創造し、宿泊客・日帰り客の増加を図る
- ・他地域より優れている点(磨きをかける) ～5つの共同温泉、2つの飲泉場の魅力を磨く
- ・他地域より劣っている点(改善を図る) ～食・交通の改善、地域一体となったおもてなし

地 域 資 源 の 活 用

- ・脈々と受継がれた石畳の独特な風情 ～石畳浪漫漂うまち並み景観の形成
- ・温泉場の奥に広がる美しい棚田、豊かな花合野川の流れ ～観光資源として活用、地域農産物の活用

湯平温泉場活力創造会議の自主自立

- ・各団体の枠を超え、住民自ら地域全体の振興を企画、実践、管理運営を行う
- ・財政基盤を確立し、事務局体制を強化し、持続、継続、発展する組織を目指す

湯平地域の再生の3つの柱と7つの戦略

◆7つの戦略

目標達成のための7つの個別戦略

戦略1 温泉資源の最大限の活用

5つの共同温泉をリニューアルし、湯めぐりの魅力を創出

H17年度 石畳沿いの金の湯、銀の湯の改修

H18年度 中の湯、中央温泉の改修、湯めぐりパンフレットの作成

H19年度 金の湯、橋本温泉の改修

戦略2 湯平らしい温泉場作り

石畳浪漫漂う湯平温泉場らしい独特のまち並みの景観を再生

H17年度 7軒の旅館・商店の改修

H18年度 8軒の旅館・商店の改修 累計15軒

H19年度 景観重点箇所改修

戦略3 農業と観光の連携

農業資源の観光面での活用、農業と観光の協働事業による地域の一体感の醸成

H18年度

・そば作り協働農園

種まき・収穫を共同で実施。地域の祭り・旅館の年越しそばに提供

・新米フェア(H18年10月7日～13日)

温泉街の全旅館26軒が地元の新米「ゆのひらげんせん米」をお客さんに提供するフェアを実施した。

H19年度 加工所の設置、オーナー農園を検討

湯平地域の再生の3つの柱と7つの戦略

◆7つの戦略

戦略4 食の魅力アップ

旅館・食堂の食の魅力アップを図り、観光地としての魅力を磨く。

H18年度

・レシピ集の作成

地域野菜の収穫時期を知り、旬の食材を様々な料理として提供するため、レシピ集を作成し、全旅館・食堂に配布。

・料理研修会の設置・開催

料理湯平らしい食の探求、食と農業の連携、オリジナルの開発を目的に女将の会、農業者が参加して3月ごとに開催。

戦略5 モータリゼーション対策

H18年度 駐車場対策、アクセス対策(案内看板の設置等)の検討

H19年度 駐車場対策、アクセス対策の実施

戦略6 賑わいの場の創出

散策の折に立ち寄ることができるカフェやショップなど、賑わいと交流の場を空家旅館を活用して開設する。

H18年度 交流のまち作り事業(金の湯前カフェの開設)

まち歩きの楽しみ作り事業(石畳沿い着物レンタル店の開設)

H19年度 総合事務所の設置(地域活動の拠点として、活力創造会議・観光協会・旅館組合の総合事務所の設置を検討)

戦略7 誘客のためのソフト戦略と情報発信

H18年度 ホームページ制作・湯平灯りプロジェクト(かずら照明)

H19年度 パンフレット等広報ツールの作成、誘客イベントの企画

湯平地域の再生へのシナリオ

◆ステージ1 『ホップ』(2005年～2007年)

- 全体目標:「まちの骨格の再生」と「地域の団結」
 - 「5つの共同温泉の再興」と「石畳浪漫漂う町まち並み形成」により町の骨格を再生
 - 賑わいの場の創出(空き家旅館を活用したチャレンジショップ、休憩所等の開設)
 - 農業と観光の連携事業(オーナー農園、協働農園、旅館の女将と農村婦人の協働による“割ぼう着レストラン”の開設)
 - 誘客のためのソフト事業(湯平灯りプロジェクト)
- 湯平温泉場活力創造会議の目標:地域の中での確固たる存在感を確立し、財政の基盤を作る。
 - 事業を通じて地域の人から認められ、頼られる組織としての地位確立
 - 事業を通じて若い世代や女性が参画する組織へ移行

※大分県合併地域活力創造特別対策事業の活用

◆ステージ2 『ステップ』(2008年～2010年)

- 全体目標:情報発信と受入れ態勢の整備
 - ～地域一丸で湯平地域を売り出し、地域外の需要(外貨)を獲得～
(2007年問題＝団塊の世代がターゲット)
 - 誘客のためのソフト事業(竹宵ウィークエンド、収穫感謝祭)、情報発信事業
- 湯平温泉場活力創造会議の目標:自主自立する活力創造会議
 - 財政基盤の確立
 - 事務局体制の強化(専任職員の雇用)
 - ※組織を固め、いい人材を雇用し、持続的発展の基盤を作る。

湯平地域の再生へのシナリオ

◆ステージ3 『ジャンプ』(2011年～)

■全体目標:湯布院の湯平から九州の湯平へ

～自主自立する湯平地域の確立～

●九州の中できらりと光る湯平地域

由布市を代表する地域として、由布院温泉と共に互いの個性を認めつつ発展

●新たな地域経営の展開

農業－観光の連携を進化させ、稼いだ外貨を元に地域経営を展開(旅館、住民のニーズに基づいた地域マーケットの開設)

■湯平温泉場活力創造会議の目標:個性的な地域づくり、自主自立する地域づくりを継続。
若い世代、女性が活躍できる仕組みを確立し、組織の継承を行う
いながら継続的に発展。

観光客増加による地域収益増進の目標

◆具体的な目標: 当面の目標として、観光客の1割増加をめざす

◆目標達成次期: ステージ2(2008年~2010年)の期間

●目標年間増加客数=3万6千人 → 1日当たり100人増をめざす

●1割増加した場合の経済効果

- ・宿泊に係る経済効果 83,402千円(旅館1軒当たり2,780千円)
- ・日帰り客に係る経済効果 30,665千円
- ・合計 114,067千円

※ 観光客を1割増加させ、年間1億1千万円の地域外需用(外貨)を取り込む。
農業と観光の連携を強化し、外貨を湯平地域内に循環させる。

観光客増加による地域収益増進の目標

(参考)

◆経済効果(観光客が1割増加した場合の経済効果試算)

観光動態調査より 湯平温泉年間観光客数 358,976人(H10~16年平均)

宿泊客観光消費額 13,830円(湯布院町平均)

日帰り客観光消費額 1,124円(湯布院町平均)

湯平温泉に観光客が1割増加すると、年間35,898人増(1日当り100人増)

①宿泊客観光消費額

8,615人 × (13,830円 × 0.7) ※湯布院町平均単価の7割で試算
= 83,401,815円 (旅館1軒当り2,780,061円)

②日帰り観光客消費額

27,282人 × 1,124円 = 30,664,968円

合計(①+②) 114,066,783円

戦略1 温泉資源の最大限の活用

◆目的

湯平温泉は、炭酸水素イオン(重曹の成分)を多量に含む温泉で、胃腸病等の消化器系疾患特効薬として、また、弱アルカリ性のお肌にやさしい温泉として、「飲んでよし、浸ってよし」の素晴らしい泉質を有する一方、地下の岩盤溜まりからの湧出量には限界があることも指摘されている。この限られた温泉資源を最大限活用するため、金の湯、銀の湯の二つの飲泉広場の整備を図り、「飲み湯」としての湯平温泉の素晴らしさを広く伝えるとともに、湯平温泉の歴史的遺産とも言える5つの共同温泉の再整備と温泉めぐり手形の発行など各種ソフト施策を展開することにより集客力の向上を図る。

◆実施概要

今後3ヵ年計画で、2つの飲泉場の整備と5つの共同温泉の再整備を図るとともに、温泉手形の発行、入浴グッズの販売など入浴客増加に向けたソフト施策を実施する。また、限られた温泉資源を最大限活用するため、管理の合理化を図る。

◆スケジュール及び事業内容

H17年度 金の湯、銀の湯の飲泉広場及び内外装の再整備

湯平温泉の原点である「飲泉文化」の復活を目指して整備。

石畳の上側、下側に位置する金の湯と銀の湯が飲泉を通じて線で結ばれ、相乗効果による石畳通りの賑わい創出できた。

戦略1 温泉資源の最大限の活用

H18年度 中の湯の改修、中央温泉(砂湯)の改修

〔中の湯の改修〕

石畳の中央に位置し、前面の石畳につながる多目的広場を備えている。

改修概要:

老朽化した2階を撤去し、屋上テラスを設置。石畳から川向こうの山が眺望できるようになり、石畳に明るく開放的な空間を創出、屋上テラスは、着物ファッションショー等の誘客イベントに活用する。

男女別の2つある浴槽から、単浴槽とし花合野川側に改築。来年改修予定の金の湯も同様に単浴槽とし、日替わりで男湯、女湯をローテーションさせる予定。

限りある温泉資源の最大限の活用と脱衣スペース等の確保、湯めぐり楽しさの創出を目指す。

〔中央の湯の改修〕

石畳坂道の中程を折れ、砂湯橋を渡った花合野川沿いに位置し、屋形船を思わせる独特の佇まいの小さな温泉。

改修概要:

度重なる浸水により部分的に補修を繰り返してきた外観をリニューアルするとともに、むき出しの配管類を整理し、修景する。

戦略1 温泉資源の最大限の活用

H18年度

〔湯めぐり促進事業〕

5つの共同温泉の湯めぐりを促進し、共同温泉の利用者の増加と町の賑わいの創出を図るために、湯めぐり用のパンフレットを作成する。

「湯平温泉 湯めぐり絵巻」

湯平温泉の雰囲気にあう和風のレトロ調。

湯平温泉の歴史

マップ(共同温泉の場所、トイレ、遊歩コース、散策のポイントなど)

共同温泉の写真と料金表

スタンプ押印スペース(共同温泉スタンプラリー)

H19年度 金の湯の改修、橋本温泉の改修

◆地域への波及効果

湯平温泉の核となる2つの飲泉広場と特長のある5つの共同浴場が再整備されることになり、温泉めぐり手形の発行や飲泉の有効活用などのソフト戦略を併せて展開することにより、湯平温泉全体の集客力の向上と温泉街の賑わいの復活が図られる。また、入浴料収入の増加等により、今後の地域振興のための原資が確保される。

戦略2 湯平らしい温泉場作り

◆目的

湯平温泉場には、石畳の坂道、段々状の石垣など脈々と受継がれてきた景観が今なお残り、他の何処にもない独特の温泉場としての風情を有している。

そこで、「石畳」の景観を活かしたまち並み景観形成事業に取り組み、「誰もが訪れたいくなる癒しのまち」、「歴史と文化を伝えるまち」、「うるおいと活気のあるまち」へと再生を図り、集客力の向上を図る。

◆実施概要

H17年度から3か年計画で石畳浪漫漂う湯平温泉場らしい独特のまち並み景観を再生する。

H17年度 7軒

旅館5軒(高尾荘、鶴屋隠宅、山城屋、ばん屋、上柳屋)

商店2軒(金子商店、宝来屋)

H18年度 8軒 累計15軒(旅館・商店総数37軒のうち40.5%)

旅館6軒(坂本屋、都屋、白雲荘、右丸、暁雲荘、ペンション花合野)

商店2軒(じん平食堂、ふみちゃん食堂)

H19年度 修景のポイントとなる箇所を重点的に実施。

◆地域への波及効果

「石畳浪漫漂うまちづくり」という統一されたコンセプトにより湯平温泉場の半数以上の旅館・商店が整備、改修されることとなり、湯平温泉場の魅力が高められ、湯平温泉全体の集客力の向上が図られる。

また、地域の連帯感が醸成されるとともに、個々の旅館・商店に良い意味での競争心が芽生え、若手後継者の経営意欲が喚起されるなど、将来にわたり地域の活力創造及び維持につながる。

戦略3 農業と観光の連携

◆目的

温泉場と地域農業を融合させ、湯平温泉地域の新たな魅力を創造するとともに、観光・旅館関係者と農業関係者が協働して新たな取組みを行うことにより、地域内の経済循環を高める。

◆実施概要

観光・旅館関係者と農業関係者がチャレンジと協調の精神で、強固なスクラムを組んで、実現できることを一つ一つ着実に実施していく。

◆スケジュール及び事業内容

H18年度

①そば作り協働農園

活力創造会議が農地を借り受け、そば作りを農家と協働して実施。種まき、収穫を農家と観光・旅館関係者が協働で行い地域内の連携を深めた。

そば作付け面積:約1反、 収穫量40kg(そば粉)

そばの活用:・湯平産業文化祭(H18年11月26日)に手打ちそば、そばぜんざいを提供

- ・年越しそばとして提供。(食の分科会有志がそば打ちをし、旅館に販売)
- ・名物料理の開発。(食の分科会がそばの名物料理を研究。交流のまちづくり事業で開設する金の湯前カフェ等で提供)



そば種まき



産業文化祭で手打ちそばを提供

戦略3 農業と観光の連携

②新米フェア

米の収穫時期が周囲の地域より1月早い特性を活かして、「湯平新米フェア」を開催。

温泉場の全旅館26軒が湯平地域の新米「ゆのひらげんせん米」をお客さんに提供するフェアを平成18年10月7日から13日の1週間実施。

地元産新米の使用による食の魅力向上と地産地消の推進につながった。



新米フェア引渡式



旅館のフロント等に新米フェアの開催を掲示

H19年度

H18年度事業の継続開催。 ①そば作り協働農園、②新米フェア

次の事業について、実現の可能性を検討。

③棚田オーナー制度、④加工所の設置、⑤朝市の開催、⑥田植祭り・収穫祭の開催

◆地域への波及効果

温泉場の背後に広がる美しい棚田などの農業資源の活用により、湯平温泉地域に新たな魅力が付加され、グリーンツーリズムへの発展が期待できる。

観光・旅館関係者と農業関係者が一緒に事業に取り組むことにより、地域の一体感が醸成され、自主自立した地域の実現に向けて、地域の団結力が高まる。

戦略4 食の魅力アップ創出事業

◆目的

旅行先の決定に重視されるのは、「温泉」、「食」、「自然」である。湯平温泉には何処にも負けない温泉と自然があるので、「食」の魅力アップに重点的に取り組むことにより観光地としての魅力を磨く。

◆実施概要

湯平ならではの食の魅力を生かすため、地元農家と連携しながら、研修会を開催し料理の研究をするとともに、食に関連したイベント等で研究成果を実践、検証する。

◆スケジュール及び事業内容

H18年度

①レシピ集の作成

地域野菜の収穫時期を知り、旬の食材として旅館・食堂が使用できるようにレシピ集を作成し、全旅館・食堂に配布する。地産地消の推進により地域の魅力を高めていく。

石畳沿いに立地する農産物直販所「あいやん」(H17年商店街空き店舗対策事業により整備)を通じて地域野菜を旅館街に販売するとともに、「あいやん」を介して旅館・生産者の情報を伝達し、連携を強化していく。

②料理研究会の設立・開催

湯平らしい食の探求、食と農業の連携、オリジナル料理の開発を目的に、旅館の女将、食堂、農業関係者が一体となって「湯平・食の里山研究会」をH18年7月に設立。季節毎に料理研修会を開催。

今後、オリジナル料理を開発し、各旅館や交流のまちづくり事業で開設するカフェ等で披露していく予定。

戦略4 食の魅力アップ創出事業



料理講習会でアドバイザーの実演を熱心に見つめる女将たち

H19年度

- ①「湯平料理研修会」(継続)、②食を通じた地域内の連携強化と組織作り(食と農の交流研究会)
- ③食と農の連携組織の活動拠点作り(加工所、レストラン等)

◆地域への波及効果

食の魅力アップが図られれば、湯平温泉場には、「温泉」、「食」、「自然」の旅人を惹き付ける3大要素が整い、観光客によりもたらされる外貨により地域全体の所得の向上が期待できる。

また、地産地消の実践により地域内の経済循環を促進させ、農業との連携が強化される。

さらに、身体によい、命に繋がる食を提供することで、心身ともに癒しの温泉場として、湯平温泉の活力創造に重要な役割を果たすことが期待できる。

戦略5 モータリゼーション対策事業

◆目的

親切におもてなしをする湯平の玄関づくり

◆実施概要

1. 駐車場の有効活用
2. 案内板(サイン)の充実

◆スケジュール及び事業内容

H17年度

1. 橋本駐車場の整備
2. 公共交通機関に関するアンケート実施

H18年度

1. 共同駐車場の検討
2. 案内板設置位置、トータルデザインの検討

H19年度

1. 共同駐車場の設置、2. 案内板設置の設置

◆地域への波及効果

湯平を訪れる人にとって“親切なおもてなし”をすることが実現出来たなら、それはリピーター確保につながります。

同時に旅人にとって親切な環境は、そこに住む住人にとっても住み易い環境となります。地域の過疎化進行の歯止めとなり得ます。

今後益々増加傾向にある外国人客の誘致も視野に入れながら、アクセス環境の充実を図り、全体の目標である“九州の湯平”としての地位確立に寄与します。

戦略6 賑わいの場の創出

◆目的

石畳の散策の折に立寄ることができるカフェやショップ、並びに、湯上りの憩いの場所などの賑わいと交流の場を空き店舗・空き家旅館等を活用して開設し、「歩いて楽しいまち」、「湯めぐりを楽しむ癒しのまち」を創り、日帰り客の増加と観光消費額の増大を図る。

◆実施概要

- ①チャレンジショップの開設
- ②休憩所の設置

◆スケジュール及び事業内容

H17年度

利用可能な空き店舗等リストアップ

H18年度

①交流のまち作り事業(金の湯前カフェの開設)

歩いて楽しいまち作り、交流のまち作りを進めるため、H17年度整備した金の湯飲泉場の前の空き店舗にカフェを開設する。

また、料理研究会が研究したケーキやお菓子等をカフェで販売し、地域の特色を出すとともに、湯平の食の魅力を磨く実践の場とする。

②まち歩きの楽しみづくり事業

歩いて楽しいまち作りを推進するため、石畳通り沿いの空き店舗に、着物のレンタル・販売、ちりめん細工の小物を販売するショップを開設する。

戦略6 賑わいの場の創出

H19年度

①総合事務所の設置

湯平温泉場活力創造会議、湯平温泉観光協会、湯平温泉旅館組合の総合事務所を設置し、地域活動の活動拠点を整備する。

②チャレンジショップの拡充

「歩いて楽しいまち」、「湯めぐりを楽しむ癒しのまち」の推進するとともに、空き店舗・空き家旅館に灯りをともし賑わいを創出するため、チャレンジショップを拡充する。

③休憩所の設置

湯上がりに憩い、交流できる休憩所の開設を検討する。

◆地域への波及効果

チャレンジショップ、カフェの開設により観光消費額が増加するとともに、散策の立寄りポイントができ、歩いて楽しむ魅力が高まり、日帰り客、リピーターの増加など、湯平全体の集客力の向上が図られる。

休憩室の開設により、湯めぐりを楽しむ拠点が整備され、共同温泉の入浴客の増加が図られる。また、湯上りに憩う場所ができるので、一人当りの滞在時間が延び、飲食等の需要増加が期待される。

また、これらの開設により、空き家旅館の有効活用が図られ、石畳に賑わいが戻るとともに、ショップ開業にチャレンジする人と地元の交流により地域経済の活性化が期待できる。

戦略7 ソフト戦略と情報発信

◆目的

各個別戦略で高めた魅力を十分に引き出すソフト事業を実施するとともに、ホームページや各種広報ツールにより外に向かって情報発信を行う。

◆実施概要

①ソフト戦略: 誘客のためのソフト事業の実施(灯りプロジェクト、地域内行事の見直しによる域外交流の促進)

②情報発信: ホームページの開設、広報パンフレットの作成、旅行商品化の検討

◆スケジュール及び事業内容

H18年度

①ソフト戦略

○実施体制の構築: 若手メンバーによるワーキンググループの設立

○湯平灯りプロジェクト

②情報発信

○ホームページの開設

地域ならではの旬な情報を日々更新し、変わりゆく湯平の活気が伝わるアクティブなHP。

H19年度

①ソフト戦略: 竹宵ウィークエンド、地域内行事の見直しによる誘客イベント実施

②情報発信: ホームページを開設、新生「湯平」のパンフレット作成

◆地域への波及効果

戦略1～戦略6の魅力を相互に引き出し、また総仕上げのソフト戦略を実施することにより、湯平全体の魅力を磨き深め、観光客の増加による地域収益の増進が図れる。

今後リタイヤを迎える団塊の世代をターゲットに、情報発信を行うことにより、地域外の需要(外貨)を獲得が見込まれる。